

参考者=1576

第五十四回「本郷ふじやま古民家歴史部会」歴史探訪「東海道の歴史を語る追加」

「Ⅷ」12月2日 (木) 大磯宿・旧東海道松並木・著名人別荘

(集合；「JR 大磯」駅改札口9時50分同時出発)

行程；大磯駅→旧東海道(釜口古墳・化粧井戸)→虎御石→本陣、問屋場→地福寺→

海水浴発祥の碑・松本順→新島襄終焉の地→嶋立庵→藤村旧宅→昼食場所。

昼食場所；鳥料理「杉本」 特注鳥料理ランチ 1、150/程。

大磯駅 9:52

電話；0463-61-0444

大磯宿

規模(正徳元年, 江戸時代=1771) 宿高464石301 合家数676・人口総数3056 (男1517・女1498)・旅籠屋66・本陣3・脇本陣0

徳川家康が1601年、宿駅・伝馬制度を定めて以来、2001年で400年という節目を迎える東海道には、ご存じのように、53の宿場(神奈川県内では9宿)がありました。これらの宿場は旅の宿として繁盛し、現在もその周辺には名残を留める史跡や名所が数多く残っています。東海道開通と共に整備された、旧東海道松並木・本陣跡(小島・尾上・石井3陣)・著名人別荘跡、等の史跡を歩きます。大磯宿の始まりは、1620(元和6)に3陣の一つ、尾上本陣の祖先、市右衛門が置いた宿で、続いて小島本陣、石井本陣が出来、宿場の体裁が整いました。又、大磯は日本最初の海水浴場発祥の地でもあります。

1・旧東海道松並木

2・釜口古墳

王城山続きの山腹にある横穴墓の大きなもので床面四畳半の広さで、天井は厚さ1mの一枚板の巨石を乗せている。構築は見事で神奈川県随一と言う。「青銅製散蓮華形小匙」、須恵器、鉄鏃(ヤヅリ)等の出土品の各部寸法は高麗尺が用いられ、豊富な経済力、高度な築造技術が必要であり、渡来の高麗人と思われ、七世紀末渡来の高麗王若光又は、それに準ずる人物の墓との説有り。

3・化粧井戸

鎌倉時代の大磯の中心は化粧坂、長者林の付近と言われ、化粧井戸付近は遊興場として現在のそば屋(車屋)の前は三味線石橋と称し、虎御前も当時此の辺りに住み曾我十郎との恋に芽生えた場所である。虎御前も朝夕この井戸で水を汲んで化粧をした事からこの名が付いたと言われる。

10:07
10

4・虎御石・延台寺(日蓮宗・本尊宗祖奠定デソテイ?の大曼荼羅・寺宝曼荼羅江戸期開山日道筆, 虎御石)

慶長4年(1599)身延山19世日道の創建。寺伝に寄れば、曾我十郎の恋人、虎御前が、十郎亡き後尼となって、十郎の供養のために「法虎庵」を結んだのが始まりと言う。開山は、当時の身延山久遠寺の法主であった日道上人です。

この寺に残されている「虎御石」は、虎の年、虎の日、虎の刻に虎御前が生まれ

た時に、子宝のお告げとして、弁財天から授かったもので、小さな石が虎女の成長と共に大きくなり、後に十郎が工藤祐経（スツネ）の刺客に矢で射かけられたとき、此の石の陰に隠れ、矢は石に当たって難をのがれたと言う。此の石を「身代わり石」と言うようになった。

5・小島本陣・問屋場・尾上本陣・石井本陣

10:15 大磯に本陣が3軒あり、小島本陣はその一つ。屋敷は、間口9間4尺、奥行き26間で、坪数246坪。本陣は幕府公用の役人、大名、公家、高僧などの宿泊した高級旅館。建物は平屋で、門、玄関、上段の間、式台などがついていた。宿泊する大名は、食料から繕、椀、調度品、夜具、風呂桶まで持ち込んだそうです。

6・地福寺（古義真言宗・本尊不動明王・弘法大師坐像・地福寺文書・島崎藤村夫妻の墓・梅林）

10:17
20 837（承和5）に創建されました。本尊不動明王は室町時代の仏師但馬の作と言われる。「弘法大師坐像」は大磯町の重要文化財。寺に残る「地福寺文書」を見ると小田原北条氏に特別の保護を受けていた事が分かる。

10:23
28 境内に、小説「破戒」「夜明け前」や詩集「若菜集」などの著者、島崎藤村と、その夫人静子の墓があります。晩年、大磯に過ごした藤村が、この寺の境内の小梅林を愛し、遺言でここを永眠の地に選んだと言う。

7・海水浴発祥の碑・照ヶ崎海岸（子陶綾の浜）・松本順謝恩碑

10:34
40 明治18年（1885）陸軍軍医松本順が、照ヶ崎海岸を開設した海水浴場が、日本の海水浴場の始まりでした。但し当時は病気治療や健康増進目的の客が主であった。

照ヶ崎海岸は、アオバトが、5月から11月にかけて、夜明けから9時ころまで、海水を飲みに（塩分補給）来る事で有名。アオバトの羽は、全体が美しい緑色をしている。頭から胸にかけては黄色味が強く、腹部は白っぽい色。大磯から20～30km離れた丹沢山地辺りから飛来すると言われ、岩のくぼみで、海水を飲んだり、海面に浮かんだり、尾羽や脚を海水につけたりする。

10:45 毎年1月14日にこの浜で、セエノカミサン（寒之神・道祖神）の火祭りが盛大に行われる。「大磯の左義長」と呼ばれ、国の重要無形民俗文化財に指定されている。

8・松本順

佐倉藩の医者佐藤泰然（順天堂医院開設者）の次男、長崎で医学を学び江戸幕府医学所頭取、家重、徳川慶喜（ヨシブ）の待医を努め、明治陸軍の軍医制度を確立した。又、新撰組近藤勇の傷の手当てをしたり、近藤の没後、遺体を引き取って墓石を建てている。維新後は、山県有朋（アリモ・軍人）に請われて初代陸軍軍医総監、明治40年大磯の自宅で永眠、76才。

9・新島襄（シヨウ）終焉の地の碑（徳富蘇峰筆）

10:47 同志社大学創立者である彼が1890（明治23）病気療養のため滞在して亡くな

った旅館百足屋の跡に立っている。

10・鳴立庵「シギタツアン・日本三大俳諧道場；京都の落柿舎（ラクシヤ）、滋賀の無名庵・入館料 100 円」

1054 }
11200 }
入館料 100 円 }
11207 }
15 }
鳴立庵の辺りの浜を「子陶綾(コルギ)の磯」と言い、万葉の時代から歌に詠われた名勝の地。西行も足を留め「心なき 身にも哀れは 知られけり 鳴立沢の 秋の夕暮れ」と詠んだ、西行法師の和歌にちなんだもので、寛文年間に小田原の外郎(ウヅイ)という医師の子孫崇雪がこの場所に庵を結んだのが最初である。元禄時代に俳人大淀三千風(オホヨシミチカゼ)が入庵してから有名になり、多くの俳人が集るようになった。

11・島崎藤村旧宅

11225 }
35 }
藤村は、亡くなる 2 年前に、大磯に伝承される左義長を見て此の地に惚れ、昭和 17 年にこの家を買取り、静子夫人とともに移り住んだ。翌年「東方の門」の執筆半ば、「涼しい風だね」という言葉を残して永眠、71 才。

11247 }
12220 }
12・主な著名人別荘名・旧安田邸；安田善次郎財閥（現安田不動産大磯寮）・旧岩崎邸；岩崎弥之助三菱財閥（現エリザベス・サンダース・ホーム）・旧陸奥邸、大隅邸；大隅重信（現古川電工大磯荘）・伊藤邸；伊藤博文（現滄浪閣）・吉田邸；吉田茂（現プリンスホテル別館・平成 21 年火災）・旧松本邸跡；松本順・旧加藤邸；三菱本社副支配人、伊藤内閣外相・旧樺山邸；樺山資紀鹿兒島藩藩士 3 男、陸軍少尉、西郷従道海軍大尉、日本海軍重鎮、海軍、内務、文部各大臣・旧寺内邸；寺内正毅元帥、日清、日露戦争軍功・旧西園寺邸、池田邸；旧西園寺邸＝第二次伊藤内閣、池田邸（西園寺邸買取）＝池田成彬、三井財閥大番頭・旧三井邸；三井総本家、大磯郷土資料館・等。

13・滄浪閣（ソウロウカク・バンケットホール・中華料理店・元初代総理大臣伊藤博文旧邸・伊藤博文公滄浪閣の碑）閉鎖

14・旧吉田邸

吉田茂元首相の養父で貿易商の吉田謙三氏が明治 17 年に別邸を建てたのが始まり。戦後、総理が外国貴賓を招くため新築されたが、現在は大磯プリンスホテル別館、非公開（平成 20 年火災）。

15・六所神社（平安末期近く国府が置かれた相模の総社・祭神、櫛稲田姫命、素戔男命・大己貴尊(オホニギハヤヒ)ミコ・例祭，7月20日・本殿神明造，文治2年，1186頼朝再建天文13年，1544北条氏政改築・幣拝殿唐破風権現造，文化2年，1805再建・国府祭（コウマチ）・5月5日国府の六所神社と神揃（ソロ）山の上席争座問答（サギの舞）

崇神天皇の代，柳田氏が出雲国より，養老2年（718）此の地に移転し，祖神の櫛稲田姫命を勧請という。相模国の一の宮から四の宮，平塚八幡宮の五社の分霊と主祭神（柳田大明神）6柱（6所）を祀る。

以上

月京
永所神社
国府新宿

大磯運動公園

東海道本線

1

大磯港

137

国府新宿

大磯西

大磯ロングビーチ

